

「読むこと」と「書くこと」を接続した授業の展開を考える

広島県立廿日市西高等学校 浅井智雄

1. はじめに

現在、新課程教科書を用いた英語指導が展開されている。これからの英語指導では、素材である英文を、いろいろな角度から提示・定着させて、使える学力をつけることが求められる。本稿では、この点を、読むことの側面から考える。現在、アウトプットに至る一つの段階として、読んだ内容を英語でまとめることはよく行われている。しかし、「まとめる」ための着眼点とその生かし方についてはあまり明確ではないように思われる。目指すべき方向性は、読んで理解した事柄を「用いて」一貫性のある内容の英語を書かせることである。本稿では、そのために「考えさせる」授業の展開を提案したい。

2. 新学習指導要領から読み取れる「読むことと書くことを接続させた指導」のポイント

読むことを中心とした活動に関する内容の項では、「概要や要点をとらえる際は、特に重要な事実等をとらえることを通じ、全体の要旨を理解することが重要となる。」とされている。この中で、「概要や要点」は、英語指導の場面では、常に意識されていることではあるが、明確な形でとらえられているとは言い難い。ここでは、「おおよその内容や全体的な流れ、必要不可欠な情報、書き手の主な考えなどの読む際に見落としはならない重要なポイント」のことである。

書くことを中心とした活動に関する内容の項でも、「情報」・「概要や要点」・「考え」、さらには、「簡潔に書く」という言葉が用いられている。具体的には、読むことによって得られた情報や考えの「概要や要点」を書くよう求めている。大切なことは、「読んだことをそのまま書くのではなく、平易な表現に置き換えたり、情報の順序を変えたりするなどし

て、読み手に分かりやすく伝えるように指導することである。また、「考え」について書く場合の構成上の工夫にも触れている。さらに、書こうとする内容を明確にし、その要点を整理した上で短い文章を書くことを、「簡潔に書く」と定義している。

<指導のポイント>

第1に、両活動を、「概要や要点」・「考え」・「情報」という観点からとらえることである。実際の指導場面では、英文内容の「概要や要点」を把握させなければいけない。そのためには、授業過程の中で、生徒が理解する事柄を、「情報」「考え」と捉えさせる必要がある。

第2に、説明文を読む場合、パラグラフ単位での理解を基本とすることである。そして、パラグラフ構造を理解させた後は、パラグラフごとの「概要や要点」を英語でまとめさせる必要がある。また、英文の展開上、複数の英文を、別の語・語句・英文に凝縮したり、別の英語に置き換える作業も必要である。このように、読むことと書くことを同時進行で行うことにより、部分から全体へと英語を通じた理解が徐々に拡大する。そして、最終的には、それまでの部分的テーマに対する「理解+産出」の積み重ねを材料として、英文全体の中心的テーマを、英語で説明させる。

第3に、上記の第1点と第2点に関する指導をする際の補助教材として、ワークシートを作成することである。生徒が日常的学習手段として活用しているノートには大きな問題点がある。それは、「概要や要点」を把握する形式になっていないことである。例えば、パラグラフ構成の図式化、テーマから見た語や語句の関連性を示すための図式化、内容の要点や論の転換を示す語や語句の明示化、などの概要や要点を把握するための着眼点を、目に見える形でワークシート内に記載する必要がある。

以上のことから、生徒に「考える」ことをこれまで以上に求める必要がある。そして、英文を読み終えて考えさせるのではなく、授業の過程で継続的に、「考える」タスクに取り組みさせる必要がある。

3. 読むことと書くことの関連性について

新学習指導要領では、4技能の統合的指導によって、コミュニケーション能力を伸ばすよう強調している。読むことと書くことを関連づけた英語指導はその一翼を担うものである。ここでは、「読むこと」と「書くこと」を関連づけた指導の効果について、主な研究成果を述べる。第1点目は、読むことと書くことは学習者の「意味の構築」という面で共通点をもつため、両者を関連づけることは、学習者の批判的思考(Critical Thinking)の力の伸長につながることである。(Shen, 2011) 第2点目は、書くことにより、自分が読んだ内容や、自分の読み方を振り返ることができるため、メタ認知的スキルの伸長につながることである。第3点目は、書くことにより、学習者は読み手としてではなく、書き手の立場に立つことができるため、自分が読んだ英文の筆者の意図や英文の概要や要点を理解する段階を乗り越えることになり、自分独自のテキストを創出できることである。(Hirvela, 2004)

4. 新課程教科書「CROWN English Communication I」でどう教えるか

(1) 指導の目標としたいこと

取り上げたいタスクは、Food for Thoughtである。これは、各レッスンの中心的テーマについて説明させることを通じて、PISA型読解力の育成を狙ったものである。このタスクを完成させるためには、単なる言語知識の積み重ねではなく、各セクションの概要や要点をパラグラフ単位でとらえるとともに、パラグラフ間の関連性をしっかり考えることが求められる。そして、このタスクには、英語を用いて一貫性のある文章を作成することを目標としたい。英語で取り組む過程こそ、読むことと書くことを接続させる授業過程そのものであるからである。

(2) 授業過程のイメージ

上記の目標に基づく、各セクションの読むことと書くことの活動とFood for Thoughtの関係性が

ら、下記のような授業過程を考えた。

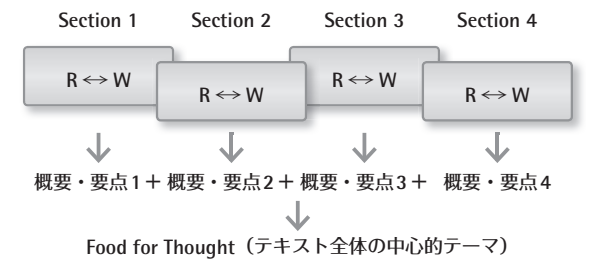


図1 レッスン全体を通じた授業過程のイメージ

(手順1) レッスン全体を構成する各セクションごとに、パラグラフ単位で、読むことと書くことを並行させた指導を行う。大切なことは、この段階で既にテキストの中心的テーマを問うFood for Thoughtの内容を生徒に知らせて、最終ゴールを意識させることである。指導方法としては、英問英答形式が中心となる。その場合、単に情報を抜き出せば答えとなる質問だけではなく、推論を引き出す質問、教科書の情報を統合させる質問も加えるなど、質問を拡大・深化させる必要がある。また、英語の質問とともに、複数行の英文を、別の表現や平易な表現で短縮させたり、情報の順序を入れ替えて、別の英語に移し替えるなどの操作にも取り組ませれば、読むことと書くことを往復しながら、理解をより確実に深まりのあるものにさせることになる。このような過程を経て、各セクションごとの概要や要点を探らせていく。なお、図1の中の各セクションが重なった部分は、それぞれの最初の部分と最後の部分が関連性を保ちながら、テキスト全体の論が進行していくことを表している。

(手順2) 各セクションの概要や要点を把握させる指導後、常に意識させてきた中心的テーマ(Food for Thoughtの内容)を改めて提示する。作成させる前には、英語の質問を通じて、概要や要点に関わるキーワードやキーフレーズを確認させたい。また、黒板に書き出したキーワードやキーフレーズを参照させながら、ペアでお互いに中心的テーマに対する解答を口頭で言わせるなどの事前活動をしておく。これらの活動の後、実際に書かせる。この時、教科書とワークシートは参照させる。Food for Thoughtは、テキスト内容を総合的にとらえているかどうかを評価するものであり、総合的思考力の向上が期待される。ぜひ、生徒自身に考える機会を与えたい。

5. 授業の実践

(1) 対象とする素材と授業過程

Lesson 6 Roots & Shootsを取り上げる。レッスン全体を通じた授業の流れを次に示す。

①導入：Take a Moment to Think を利用した背景知識の整理・確認と学習への動機づけ

②展開

- ・英語を用いたレッスン全体の概要紹介 → 音声聴取を通じたテキスト全体のイメージ把握
- ・新出語や語句の発音・意味確認や本文フレーズリーディング等の音読指導（各セクション）
- ・英文の音声聴取による、内容に関する基本的事項の理解度確認（各セクション）

・各セクションごとに、ワークシートを用いて読むことと書くことを並行させた活動を行い、中心的テーマの把握に迫る。（活動前に、中心的テーマを知らせ、学習目標を持たせる。）

・各セクションのキーワードやキーフレーズの整理、ペアでの英語による口頭要約を経て、中心的テーマについて説明する英文を書かせる。

③まとめ：T or F, Q and A等を通じた学習事項の再確認、振り返りシートを用いた自己評価

(2) 読むことと書くことを並行させた活動の具体例ーワークシートの利用

読んだことを書くことに結び付ける過程で、どのように考えるか、そして、どの英文・語句・語に注目すればよいかということを生徒に示す必要がある。そのため、この条件を満たすものとしてワークシートを作成して、この活動で要求される要素を生徒が直接見える形にすることを考えた。左記授業過程の中の枠内の部分が、本稿で取り上げている読むことと書くことを接続させた授業場面である。下記に、Food for Thoughtを考える際に、大きな手掛かりを提供してくれる2つのセクションに関するワークシートの具体的内容を示した。

Section 3	Theme	Leading Questions	Answer	Key Words and Key Phrases
14-34	The idea that everything in nature is connected and its example	1 What situation does it show that <u>everything in nature is connected</u> ? (情報抽出型質問) 2 Why does Jane say that humans are in danger of destroying both their environment and themselves? (推論生成型質問) 次の質問を手掛かりにさせる ① What happened in England? ② What does that show?	1 It shows that <u>plants and animals make up a whole pattern of life</u> . 2 ① In England, farmers killed the <u>rabbits</u> because <u>they were destroying farmers' grain</u> . After that, <u>'the pattern of life made up by animals around the farmers was destroyed</u> . Finally, <u>rats destroyed the farmers' grain</u> . ② It shows that <u>farmers who killed one kind of animal had their grain destroyed by 'another kind of animal</u> . In other words, humans' <u>'destroying a part of the environment can lead to destroying 'some kinds of animals and 'their own lives</u> . (情報の順序の入れ替え+原文の言い換え)	・ a whole pattern of life ・ go wrong ・ rabbits ・ grain ・ farmers ・ killed ・ foxes ・ chickens ・ rats ・ destroyed ・ in danger of ・ environment ・ ourselves
Section 4	Theme	Leading Questions	Answer	Key Words and Key Phrases
23-34	Necessity to use humans' ability to speak and to share ideas to make a big change	1 What is the main difference between animals and humans? (情報抽出型質問) 2 What and how should humans change? (情報統合+推論生成型質問) 3 How should humans use the ability to speak and to share ideas? (情報統合+推論生成型質問)	1 It is that <u>humans can speak and share ideas</u> . 2 Because <u>humans have caused environmental problems</u> all over the world, they should <u>solve them and change this world for the better by intelligence and cooperation</u> and sharing ideas. ↑ ↑ 6 And you have a choice : What ~ to wear? 7 [a role to play, make a difference, one person, affects small, a thousand ~ people all, make a big change] 3 <u>Humans can solve many environmental problems</u> and make the world a <u>better place</u> because they can <u>speak and share ideas</u> . ↓ Such ability is very important to <u>work together</u> to the <u>difficult</u> problems such as <u>environmental problems</u> .	・ difference ・ speak ・ share ideas ・ a role to play ・ make a difference ・ one person ・ affect ・ a choice ・ small ・ a thousand, then a million, finally a billion people

(ワークシートの解説とFood for Thoughtに対する英文作成手順)

Leading QuestionsとAnswerの一部、およびKey Words and Key Phrasesの欄は、あらかじめ記入しておく。また、インタビュー形式であるこのレッスンは、内容面から見て、いくつかのまとまりのある部分に細分化できるため、そのまとまりを段落に相当すると考え、各セクションの下の欄に行数を記入している。生徒には、まずそれぞれのLeading Questionに対する自分の解答を、Answerの部分に記入させる。その時、ワークシート内の下線を施した部分に英語を記入させる。情報抽出型質問に対しては、ほぼ全文を英語で書くことができると思われる。一方、推論生成型質問あるいは、推論生成型と情報統合型を組み合わせた質問に対しては、生徒の負担を考慮して、概要や要点に直接あるいは間接的に関わる部分を英語で書かせるようにする。このワークシートを用いた授業展開の中で、重要な部分は、原文の言い換えの箇所（Section 3、ワークシート内Answer、下線部1～5）、および、情報統合の部分（Section 4内の矢印で示した部分、3か所）である。これらは、教科書の英文・語句・語を、教科書にはない別の英語で書き表わすことを求めている。（注）intelligence、cooperation、work togetherという単語は、生徒がなかなか気づかないかもしれない。その場合は、日本語を補助的に用いて、どのような英語が可能か考えさせたい。また、情報の順序の入れ替え（Section 3）も重要なスキルである。これらの作業を通じて、各部分のテーマ（Theme）まで考えさせる。

以上の学習を経て、Food for Thoughtに対する解答を作成する。その際は、これまでの英語を読んで英語で書くという活動を意義あるものにさせるという点から、英語で作成させたい。また、教科書とワークシートを参照させる。留意させたいことは、教科書やワークシートの英語を部分的にコピーすることを繰り返すのではなく、各セクションの各項目に示されている英語を組み合わせ、一貫性のある構成にしようと努力することである。Food for Thoughtの内容は下記の通りである。

Everything in nature is connected. という表現がもっている意味いはなんでしょうか。本文の内容にそって考え、説明しましょう。

解答を作成する場合、例えば、次のような構成が考えられる。

① Everything in nature is connected. という表現が表す状況 ※ワークシート内Section 3 14-34のLeading Question 1を利用
② 人間が①で述べた状況を破壊していることとその実例 ※ワークシート内Section 3 14-34のLeading Question 2を利用
③ 人間の手による自然環境破壊を食い止めるための方策と将来の見通し ※ Section 4 前半部分のRoots & Shootsの取り組みについて言及 ※ワークシート内Section 4 23-34のLeading Question 1～3を利用 ※人間とチンパンジーの違いに言及する場合、Section 2の内容にも若干触れたい

この構成をパラグラフ構成の視点から見た場合、①がトピックセンテンス、②と③の方策が展開文、③の将来の見通しが結論文に相当すると考えられる。（注）この3つの語および語句は、ワークシートのSection 4の中の6、7、8の英語をそれぞれ置き換えたものである。

6. 終わりに

新課程教科書で扱われている英文は格調が高く、論理性に富んでいる。高校生の知的好奇心を刺激し、思考力を鍛えるに十分値するものである。理解した事柄を利用して、一貫性のある内容の英語を書くことができる、あるいは、書こうと試みることにより、学習者は、物事を深く考える力や英語で書かれた情報を整理する力、さらには、英語を用いた自己表現力を鍛えるきっかけをつかむことができると信じたい。

【参考文献】

- Hirvela, A. (2004). Connecting reading & writing in second language writing instruction. Ann Arbor, MI: University of Michigan Press.
Shen, M. Y. (2011). Reading-Writing connection for EFL college learners' literacy development. *Asian EFL Journal*, 11, 1, 87-106.
文部科学省. (2010). 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』. 開隆堂.